

投資家のみなさまへ

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

日経・東証IRフェア2025 ミニ会社説明会

2025年9月26日～27日

様々な産業での長寿命・高機能化ニーズに応じた
レアメタル部材等の開発、製造及び販売

 日本タングステン株式会社

本資料は、当社HPにも掲載しております⇒



- **会社概要**
- **当社の“ものづくり”**
- **ターゲット市場への展開**
- **代表的な商品の紹介**
 - 超硬合金製NTダイカッター
 - ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板
 - 二軸混錬押出機用部材 MAZELLOY®
- **中期的な戦略**
- **サステナビリティの取組み**
- **企業価値向上の取組みと株主還元**
- **2026年3月期（2025年度）第1四半期決算の状況（連結）**
- **appendix**
 - 2026年3月期（2025年度）第1四半期決算の状況（連結）
 - サステナビリティの取組み TOPIC
 - 「Fine Ceramics Manufacturing Company of the Year in APAC 2024」を受賞

会社概要

社名	にっぽん 日本タングステン株式会社
創立年月日	1931年4月1日
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場、福岡証券取引所（証券コード 6998）
事業内容	1. タングステン、モリブデン、その他の金属の精製加工並びに販売 2. ファインセラミックその他窯業製品の製造並びに販売 3. 不動産の賃貸および管理 4. 太陽光発電事業 5. 再生可能エネルギーによる発電事業およびその管理・運営ならびに電気の供給、販売等に関する業務 6. 古物営業法に基づく古物商
本社所在地	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
資本金	25億950万円
従業員数	511名（連結・2025年3月末）
代表者	代表取締役社長 後藤 信志
役員構成	・社内取締役 5名 ・独立社外取締役 5名（女性1名） ・執行役員 1名
グループ会社	【国内】連結子会社 2社 【海外】連結子会社 3社 持分法適用関連会社 1社



本社
(NTビル)



基山工場



飯塚工場



宇美工場

当社の“ものづくり”と 代表的な商品のご紹介

主材料

タングステン

● 元素記号の「W」は、スウェーデン語で「重い石」を意味する。レアメタルに属する。

熱に強い

鉄が溶ける温度は1500℃
タングステンが溶ける温度は3380℃

⇔溶けにくい

固い

炭素とくっつくと非常に硬く
ダイヤモンドの次に硬い

⇔削りにくい

重い

同じ大きさの鉄の2.5倍
鉛の1.7倍
金とほぼ同じ重さ

⇔運びにくい

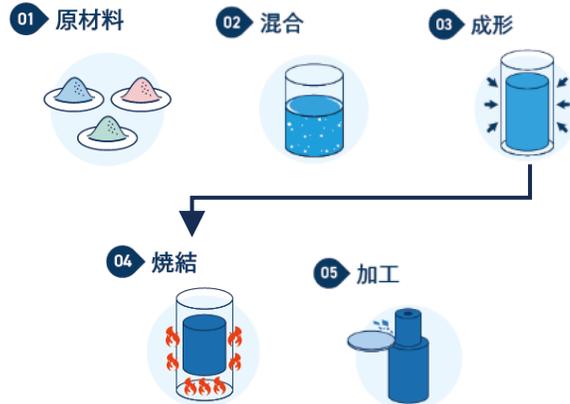


タングステンは
高度な製造技術を要する材料

技術

粉末冶金技術

金属粉末を成型して焼結し、 金属製品をつくる製法



タングステン材料を産業用製品に導く 粉末冶金技術

ニーズに合う機能を引き出す材料技術や
焼結時の収縮を計算した成形技術が強み

プ
ア
ウ
ツ
ト

高機能商品を 幅広い市場に提供

特性を生かした高機能商品を展開

耐熱性	電球のフィラメント 高温炉の部品
耐摩耗性・耐酸化性 耐腐食性	切削工具 耐摩耗部品
高密度	バランスウェイト 放射線遮蔽材
電気および熱伝導性	電極製品 放熱板

★★★ 長寿命商品に強み

様々な産業分野への展開

半導体・電子部品市場

自動車部品市場

産業用機器・部品市場

衛生用品機器・医療用部品市場

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステン製品を軸に多様な特性を持つ商品を展開

1930年代

1950年代

1980年代

2000年代

粉末冶金技術

多様な特性を持つ商品を展開

タングステンに銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた合金**を開発

熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点

電気・電子製品

(タングステン製品)



ブレーカー用電気接点

金属材料製品

(タングステン製品)



電球用タングステンワイヤー製品

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた合金**を開発

超硬合金製品

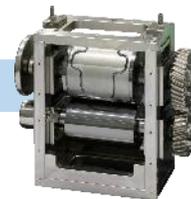
(タングステンカーバイド合金)

セラミックス製品

(セラミックス材料)



ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板



NTダイカッター



二軸混練押出機用部材「MAZELLOY®」

粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンやアルミニウム等からなる**緻密なファインセラミックス**を開発

機械部品事業 (他の商品)

耐摩耐食部品
セラミックス精密加工品
ウルトラファインバブル関連製品

産業用設備向け耐摩耗部材
液晶塗付用超硬長尺製品
超硬精密加工品

電機部品事業 (他の商品)

放射線遮蔽材料
バルンサー用錘
その他電極製品

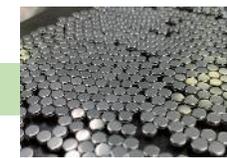
コピー機や空気清浄機の放電線
自動車のホーン用接点



抵抗溶接用電極



プラズマ電極

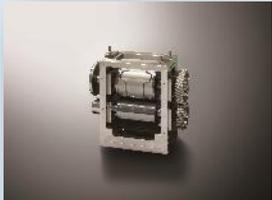
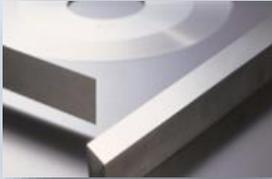


EVリレー用接点



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

4つのターゲット市場に、粉末冶金技術を生かした素材・商品群を提供

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ) 新素材を開発</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD) 用磁気ヘッド基板 世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸混錬押出機用部材 「MAZELLOY®」 新商品 (コンパウンド混錬機用)</p>	 <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用) E Vリレー用接点 </p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>

暮らしを支える様々な場面で使用される当社の製品

■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われています。



■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われています。



■ 衛生用品機器・医療用部品市場



カテーテル用のブレイディングチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われています。



皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われています。

■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品がこの分野でも活躍しています。



超合金製NTダイカッター

世界 No. 2 シェア(当社調べ)

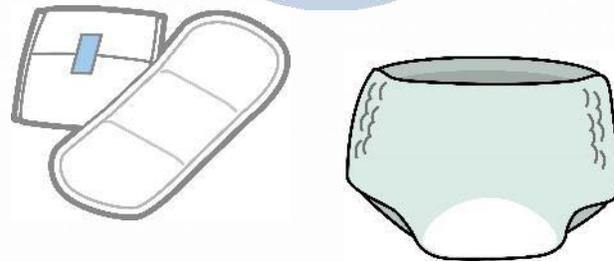
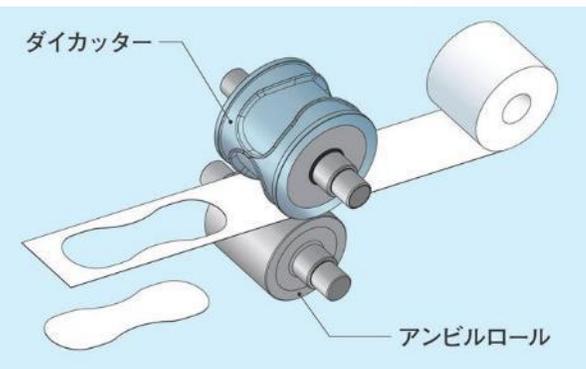
国内 No. 1 シェア(当社調べ)



ナプキンや子供・大人用おむつに
使われる不織布の切断



回転しながら不織布を切断する
ロータリーカッター



販売や刃先を再研磨するサービス
をグローバルに展開

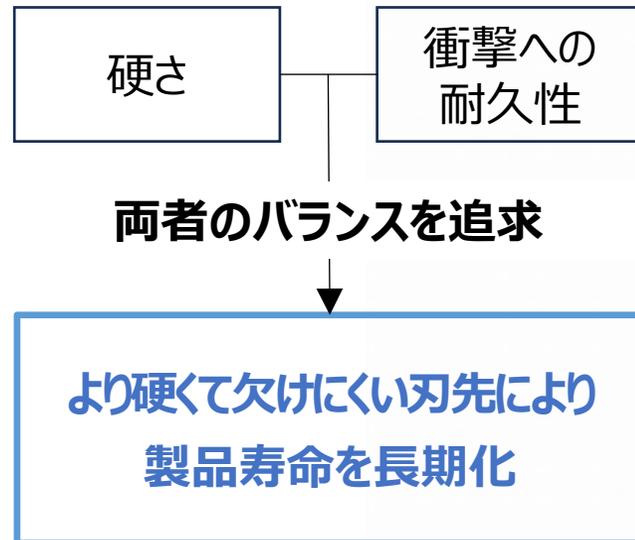


市場が成長する中国や中東等に
拡販活動を展開

お客様の視点に立った商品開発やサービスを展開

新超硬合金素材開発

新素材の提供により、
NTダイカッターの寿命を
当社従来品比約3倍に強化



新ユニット構造

ユニットを新設計することで、
当社商品のユーザビリティを強化



- 1 切断トラブルの未然防止や、お客様の安定生産
- 2 誰でも簡単セッティング、簡単メンテナンス
- 3 お客様のロール交換作業時間を短縮

モニタリングによるサービス拡充

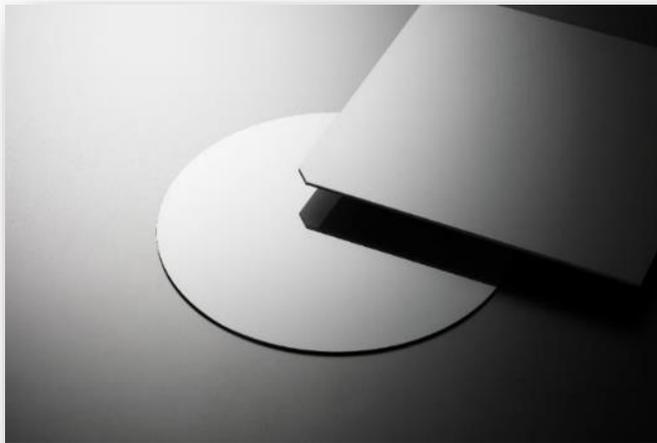
顧客の使用状況をモニタリングし、
ユーザビリティを強化



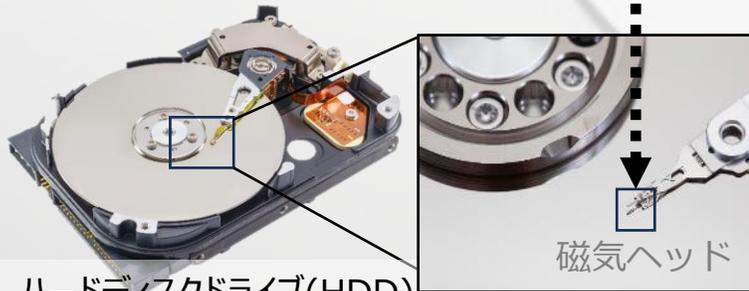
- 1 お客様使用時の切断トラブルの早期解決・未然防止
- 2 刃先の再研磨時期を予測したお客様への適切なフォローの確立
- 3 お客様の使用状況に合わせた、刃先の再研磨仕様の確立

ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板

世界 No. 1 シェア(当社調べ)



切り出して磁気ヘッド
先端部へ装着



ハードディスクドライブ(HDD)

当社の磁気ヘッド基板は 約8割の世界シェア

世界の磁気ヘッドメーカーのシェア



■ A社 ■ B社 ■ C社 ■ D社

高機能な品質

高純度

緻密

微細で均質

代表的な商品の紹介

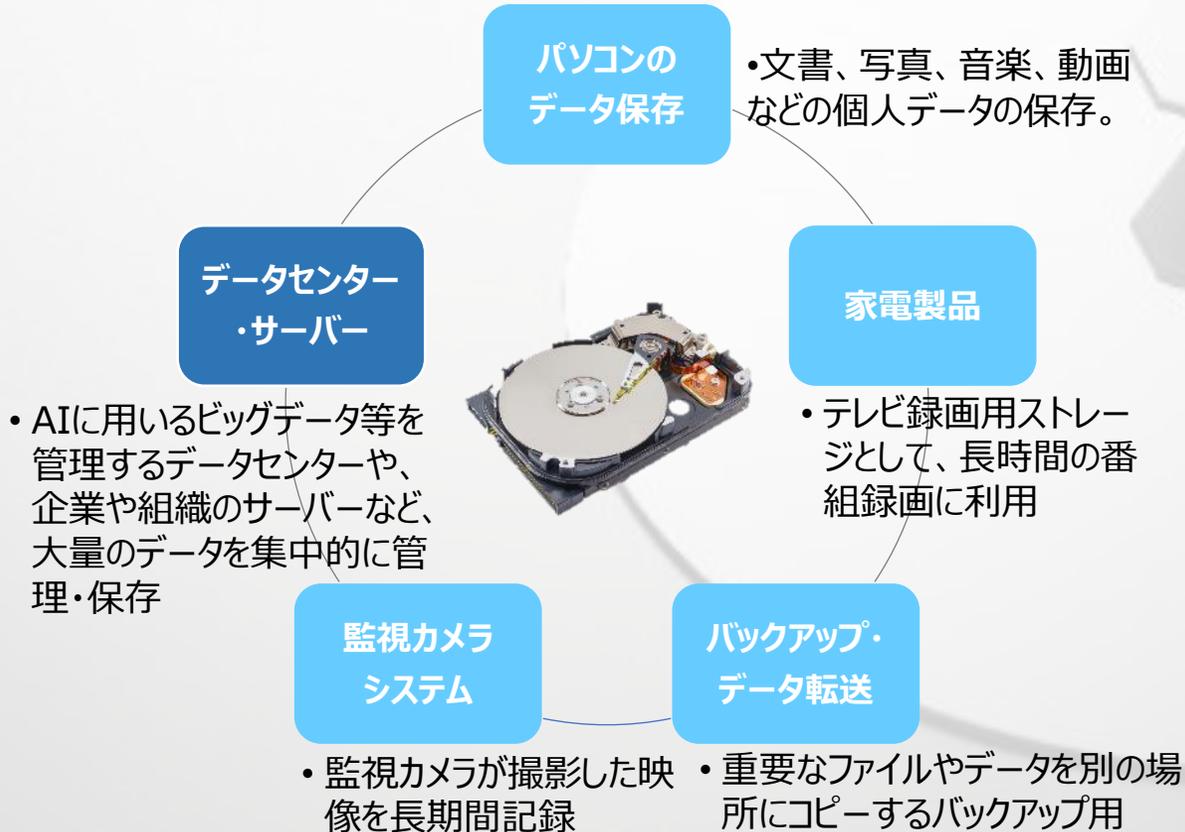
半導体・電子部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD.

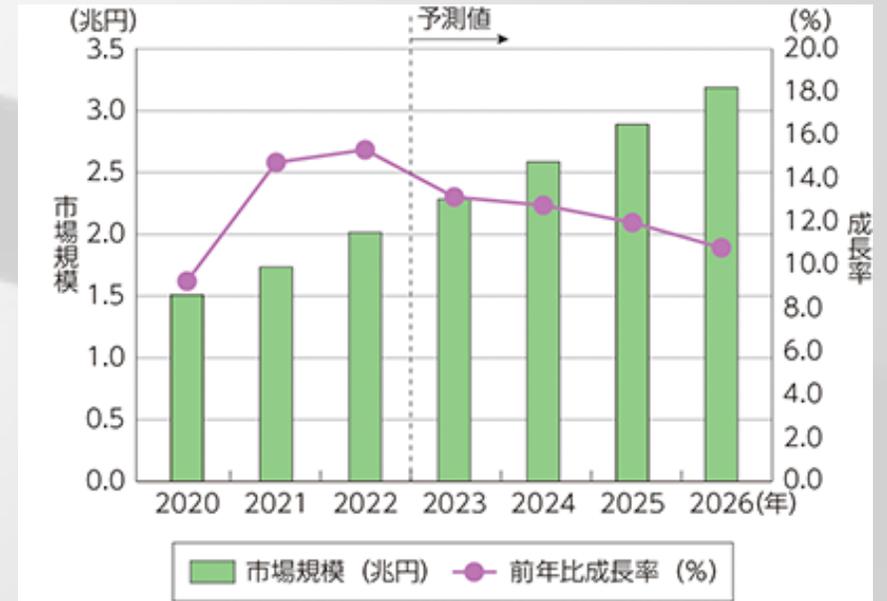
12

- HDDは、近年、大量のデータを集中的に管理・保存する**データセンター用途**が主流。

- 大容量データの保存を必要とするデータセンター等での需要に支えられ、堅調に推移する見込み。



日本のデータセンターサービス市場規模（売上高）の推移及び予測



※ 2022年は見込、2023年以降は予測

(出典) IDC「国内データセンターサービス市場予測を発表」(2022年8月29日)

総務省公開資料に基づく

二軸混錬押出機用部材 MAZELLOY[®]

スケルトン模型展示



二軸混錬押出機

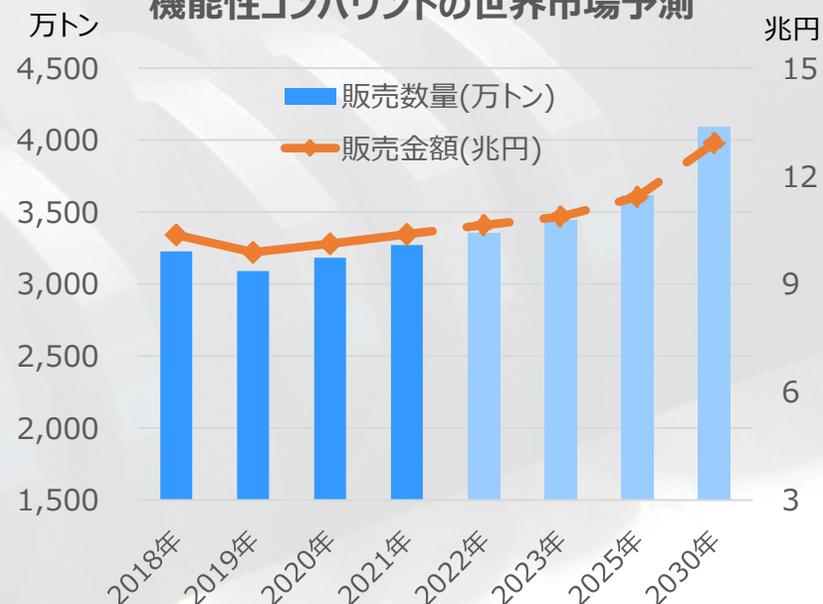
二軸混錬押出機は2本のスクリーを回転させ、コンパウンドを行うための装置



目指す市場 「機能性コンパウンド市場」

機能性コンパウンド市場は、自動車ボディの軽量化が進むと予測されており参入を目指す。

機能性コンパウンドの世界市場予測



高機能プラスチックの用途の拡大

自動車のプラットフォーム、ルーフ、ドア、フードなどでCFRP（炭素繊維強化プラスチック）の需要が拡大



代表的な商品の紹介

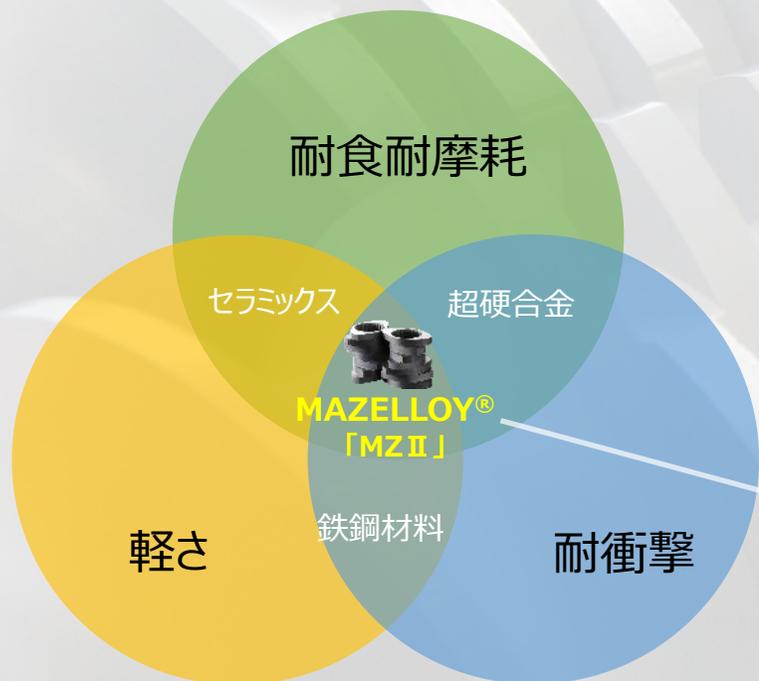
産業用機器・部品市場
自動車部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD.

14

- 「MAZELLOY®」は、耐摩耗性・耐腐食性・耐衝撃性を高い次元であわせもつ高機能商品
- お客様が製造する材料に合わせて特性を最適化したシリーズ商品を開発中

用途に合わせて特性を最適化する 材料開発力



MAZELLOY®のメリット

- 1 製造物の品質向上
腐食・摩耗に強く摩耗成分の混入最小化
- 2 管理工数削減
多用途の生産に対応
- 3 コストダウン
部材の交換頻度削減

MAZELLOY®が各賞を受賞



「日本力（にっぽんぶらんど）賞」を受賞
（2023年）



ものづくり日本大賞
優秀賞

当社のMAZELLOY
開発チームが
「優秀賞」を受賞
（2022年）



中期的な戦略

- これまでの中期経営計画を振り返り、成長と収益拡大に向けた経営課題を特定し、
 全社戦略方針と6つの柱からなる、**次期中期経営計画の骨子**を策定
- 事業ドメイン・コアコンピタンスに基づき、個別戦略や目標等を定めた**次期中期経営計画を2026年度よりスタート**

成長と収益拡大に向けた経営課題

全社戦略の抜本的強化

組織間シナジーの最大化

生産性と付加価値の向上

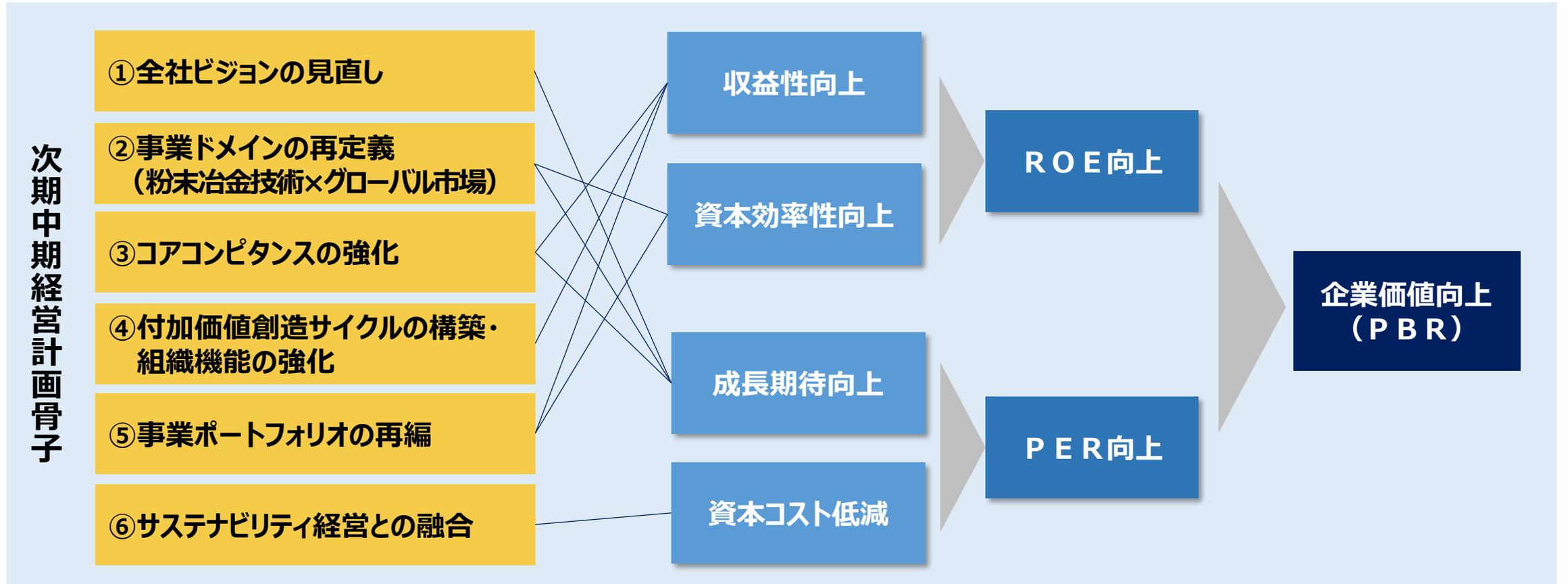
全社戦略 方針

- 多様化するお客様のニーズを深く理解し、**当社の強みを最大限に活かして、付加価値のある製品・サービスを提供**することで持続的な成長を実現する。
- 既存事業の根幹を成す**粉末冶金技術の強化**を企業の成長基盤とする。
- 収益改善に向けて全社視点で事業を分析し**ポートフォリオ再編の仕組みを強化**する。

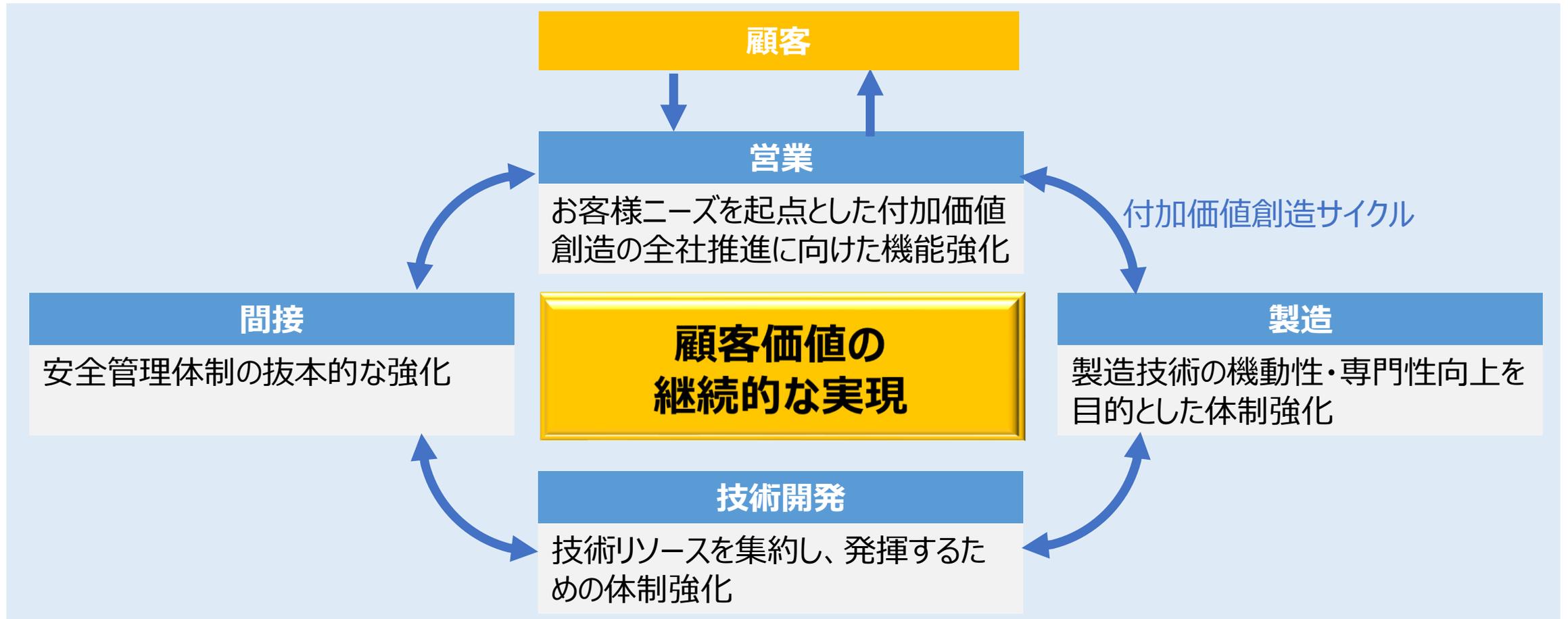
次期中期 経営計画 骨子

- ① **全社ビジョンの見直し（2030 Vision）**
- ② **事業ドメインの再定義（粉末冶金技術×グローバル市場）**
- ③ **コアコンピタンスの強化**
- ④ **付加価値創造サイクルの構築・組織機能の強化**
- ⑤ **事業ポートフォリオの再編**
- ⑥ **サステナビリティ経営との融合**

- 次期中期経営計画の骨子の取組み
収益性や資本効率性を高めることでR O Eを向上させ、
成長期待の向上や資本コストの低減によりP E Rを向上させることで、
企業価値（P B R）を向上させていく。



顧客ニーズの深い理解と価値ある製品・サービスの提供を通じて顧客価値を継続的に実現する
「付加価値創造サイクル」の推進



サステナビリティの取組み

サステナビリティの取り組み

限りある資源をもとに“ものづくり”を支える私たちだからこそ持続可能な社会に貢献していくことを使命ととらえ、パーパス「より少なく、よりよく。」のもと、長期ビジョンとなるサステナブルビジョン2050の達成に向けて、5つの「成功の柱（マテリアリティ）」を設定し、環境・社会課題への対応や社会貢献活動に取り組んでおります。

成功の柱

2050年の目指す姿

CN	カーボンマイナスへの挑戦 (Carbon Negative)	実質カーボンマイナスを達成します。
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用 (Circular Economy)	枯渇リスクの高い資源の最終廃棄をゼロにします。
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出 (Creation of Value)	消費資源量あたりの価値を大きく飛躍させるビジネスモデルを構築します。省エネ、省資源、脱炭素などの社会課題解決につながるソリューションの提供を中核事業とします。
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ (Upward spiral of Creativity and Well-being)	多様な価値観を持った人々が、働きがいを感じ、積極的に力を合わせて価値創造に挑戦する企業文化を醸成します。
CX	リアルとデジタルの融合 (Creation with real & digital transformation)	データ活用とデジタル技術を基盤とし、価値創造サイクルを迅速に回して提供価値を高めます。

■ 外部評価「EcoVadis」について



当社は、ブロンズに認定されました。



当社は、サステナビリティへの取り組みが評価され、EcoVadis社※が評価した企業全体の上位35%に与えられる「ブロンズメダル」を2023年度及び2024年度の2年連続で獲得しています。

※EcoVadis（エコバディス）社（本社：フランス）
12万社（180カ国、200業種以上）を超える企業に対して、サステナビリティ評価サービスを提供する国際的な評価機関です。

カーボンマイナスへの挑戦 (Carbon Negative)

実質カーボンマイナスを達成します。

取組みテーマ

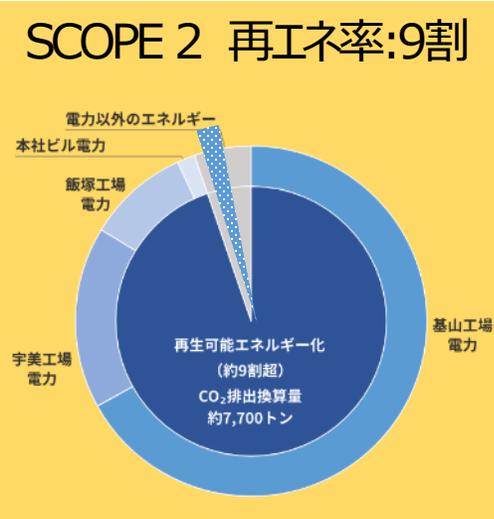
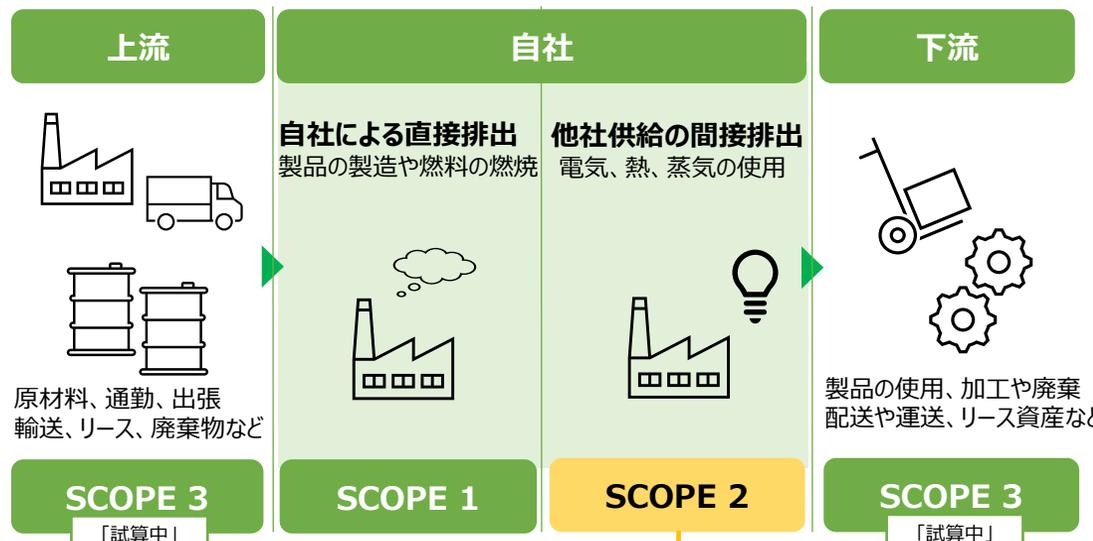
- 事業活動から発生する温室効果ガスを減らします。
- 使用するエネルギーから発生する温室効果ガスを減らします。
- サプライチェーンの川上川下で発生する温室効果ガスを減らします。
- カーボンマイナスを実現するための商品開発を強化します。

成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

■ 温室効果ガス(GHG)排出量の算定

カーボンマイナスへの取組みとして、事業活動や使用するエネルギーからの温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1、Scope2)を算定するとともに、サプライチェーンから発生する温室効果ガス(GHG)排出量(Scope3)の試算を行っております。今後ともスコープ3の算定精度の向上と、排出量削減に努めていきます。



企業価値向上の取組みと株主還元

時価総額 100 億円以上を経て、PBR 1.0倍超を目指す

- 株式流動性向上に向けた基盤の強化を実施。
- 次期中期経営計画の骨子に掲げた取組みや、投資家等とのコミュニケーション、株主還元施策の強化等を通じて P E R を高めていく。

目標

・時価総額100億円以上

・PBR 1.0倍超

・個人及び機関投資家とのコミュニケーション
・株主還元施策の強化

成長期待向上の取組み

- 次期中期経営計画の骨子に掲げた取組み
 - ・全社ビジョンの見直し
 - ・事業ドメインの再定義(粉末冶金技術×グローバル市場)
 - ・コアコンピタンスの強化

株式流動性向上に向けた基盤づくり

- | | |
|---------|----------------------------|
| 2023年2月 | 貸借銘柄選定 |
| 2023年5月 | 配当方針変更
(年間配当金の下限50円の設定) |
| 2024年1月 | 株式分割 (1:2の分割) |

企業価値向上の取組みと株主還元

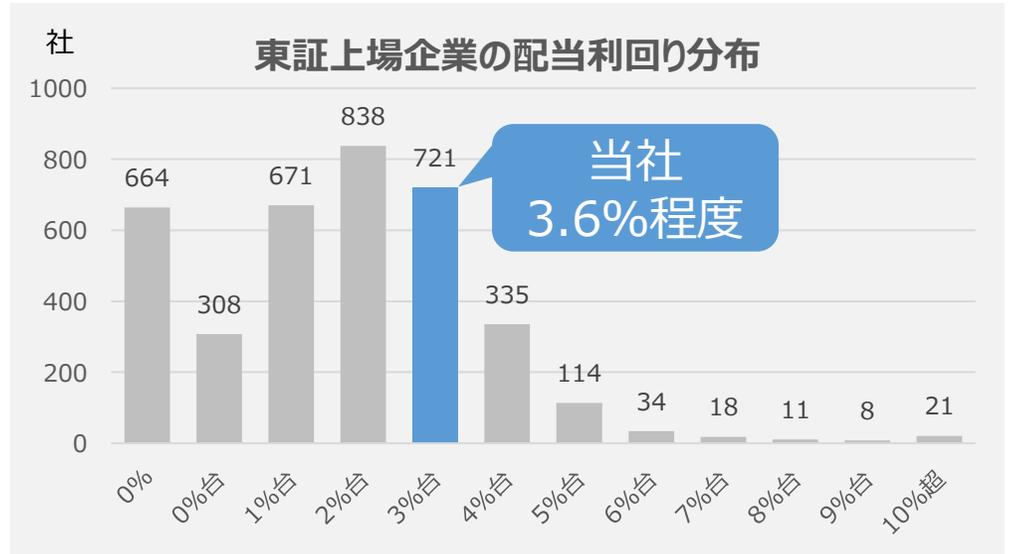
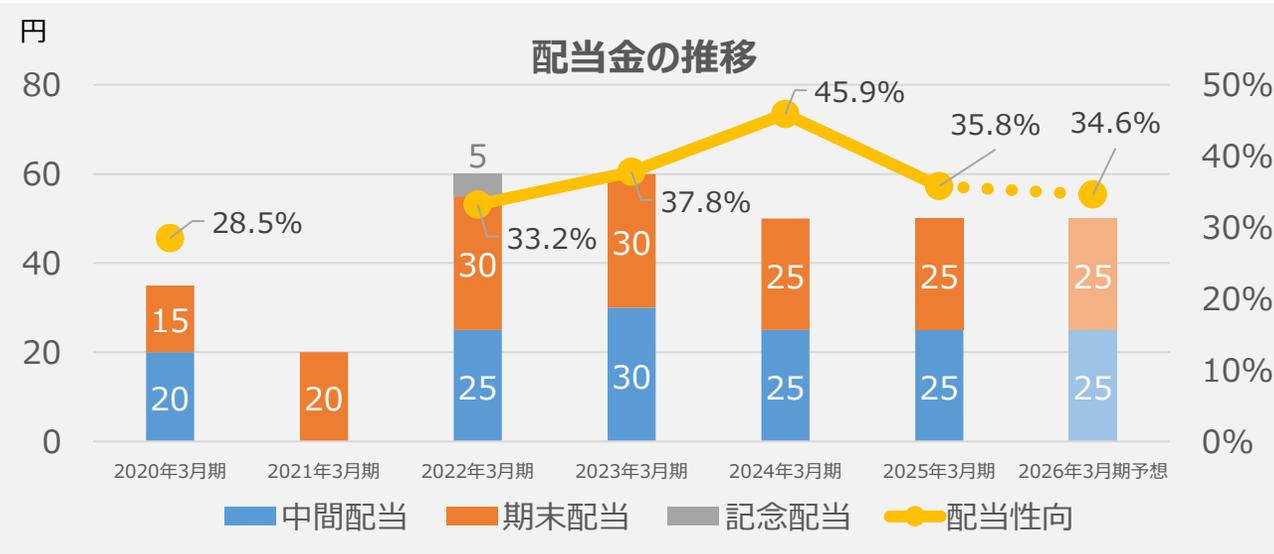
- 1株当たり年間配当金の下限を50円に設定。
- 配当利回りは、現在3.6%程度であり、東証上場企業の中では、上位30%に入る。
- さらなる株主還元について、継続的に検討。

配当方針 -原則-

年間の1株あたり配当額
50円を下限に設定

安定的・継続的な配当

親会社株主に帰属する
当期純利益の30%を目安



(注) 1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。
2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。
2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定。

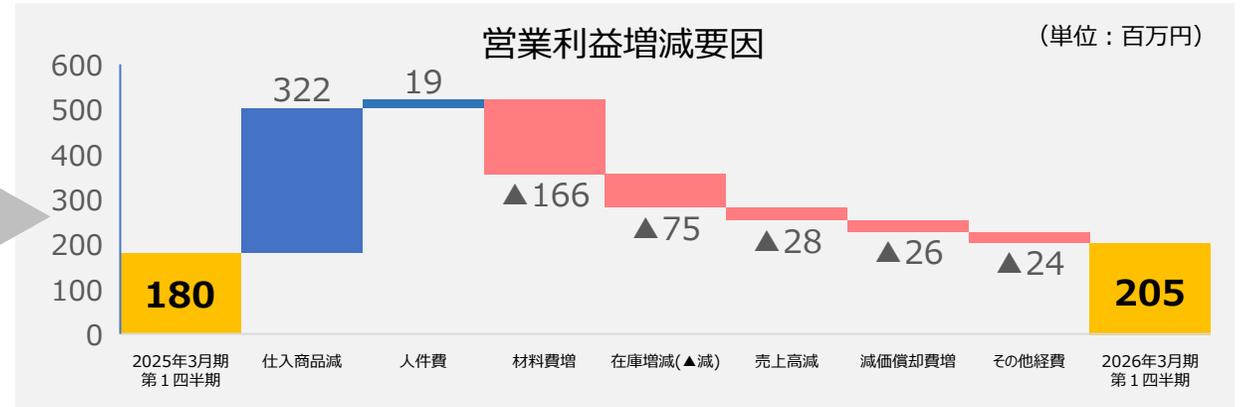
(注) 1.SPEEDAのデータベースを基に当社作成。
2.東京証券取引所上場企業3,743社を対象に作成。

2026年3月期（2025年度） 第1四半期決算の状況（連結）

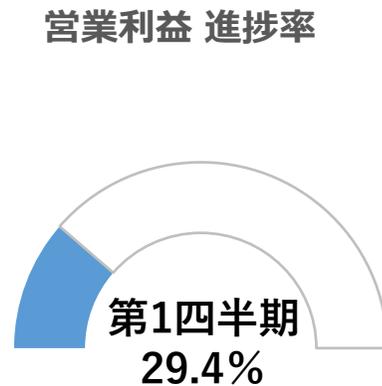
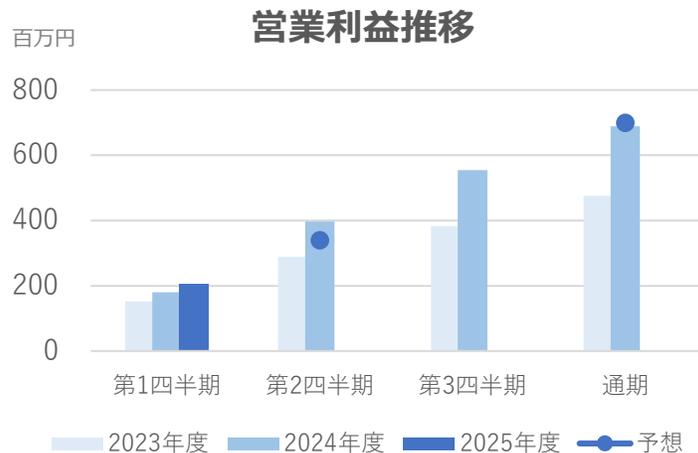
業績の状況・主な経営指標

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,181	3,134	△47	△1.5
営業利益	180	205	25	14.2
経常利益	284	268	△16	△5.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	187	181	△5	△3.0



営業利益の推移と業績予想に対する進捗率



業績等のリスク

トランプ関税の影響

- 衛生用品機器・医療用部品市場の一部商品において米国への直接輸出があるが、現時点では米国の関税措置に伴う減収は見込まない。
- 自動車部品市場では、顧客を経由した米国向けの販売等も一定数あり、今後の動向を注視。

中国輸出規制対象拡大の対応

- 中国の輸出規制の対象拡大により、原材料であるタングステンにおいて、中国からの輸出に時間を要する状況。
- 当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産に影響を及ぼすことはないが、他の仕入先からの調達、在庫のさらなる備蓄、リサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け注力。

日本タングステンの事業

- 「熱に強い」「硬い」「重い」という難材料である**タングステン**から、**粉末冶金技術**を用いて、「摩耗しにくい」「腐食しにくい」といった素材（マテリアル）の力を引き出し、高機能な商品を生産。
- **長寿命化を強み**として、**自動車製造用や産業用の機械部品**から、**半導体・衛生・医療**の用途まで、幅広い市場に展開する金属加工メーカー。

企業成長に向けた取組み

- 中期経営計画を振り返り、成長と収益拡大に向けた経営課題を特定し、**全社戦略方針**と6つの柱からなる、次期中期経営計画の骨子を策定
- ドメイン・コアコンピタンスに基づき、個別戦略や目標等を定めた**次期中期経営計画を2026年度よりスタート**

当社株式の活性化

- **時価総額100億円を経てPBR1.0倍以上を目指す。**
- 1株当たりの年間配当金の下限を50円に設定し、株主還元を強化。さらなる株主還元について、継続的に検討。



2026年3月期（2025年度） 第1四半期決算の状況（連結）

総括

・第1四半期の業績は、連結は、前年同四半期比で減収減益。個別は、前年同四半期比で増収減益

経済環境

・企業の設備投資の回復や、雇用・所得環境の改善が継続しているが、物価上昇による消費の下押しや、米国の関税政策及びウクライナ・中東での地政学リスクの継続による不確実性の高まり等により、先行きは依然として不透明な状況が続く中で推移。

ターゲット市場の概況

- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 主に医療用途の分野が好調に推移。
- ・半導体・電子部品市場 : データセンター等で使用される大容量ハードディスクドライブ (HDD) の需要が堅調に推移したほか、半導体関連の需要に支えられ、好調に推移。
- ・自動車部品市場 : 顧客の生産部材や使用製品仕様の変更の動き等もあり、伸び悩む中で推移。
- ・産業用機器・部品市場 : 前連結会計年度までのまとまった需要の一服等もあり、低調に推移。

今後の見通し

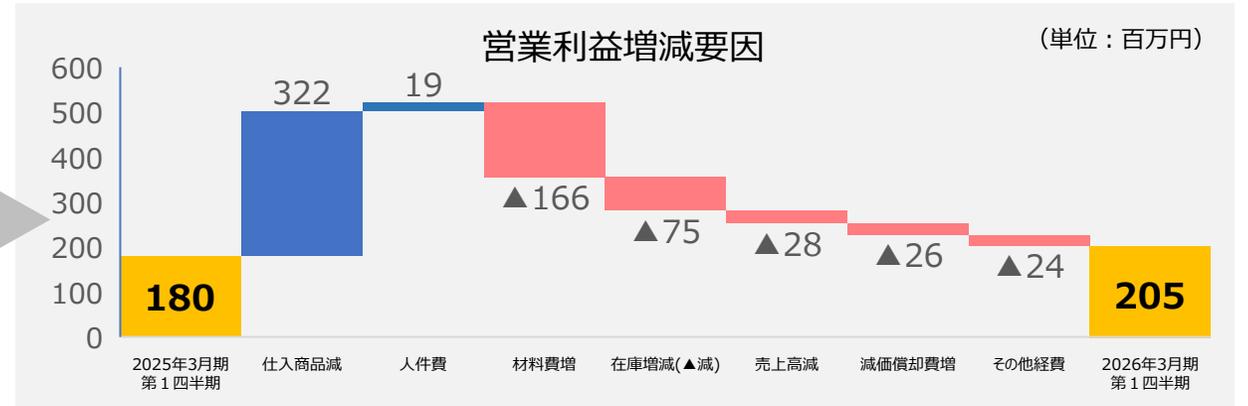
- ・今後の見通し
 - ・日本や欧米各国の経済は緩やかながらも成長が見込まれるが、米国の関税措置が実行に移される中で、景気減速への懸念等、先行きの不透明感はより一層高まる中で推移するものと思われる。
 - ・衛生用品機器・医療用部品市場の一部商品において米国への直接輸出があるが、現時点では米国の関税措置に伴う減収は見込まない。
 - ・自動車部品市場では、顧客を経由した米国向けの販売等も一定数あり、今後の動向を注視。
 - ・半導体・電子部品市場は堅調に推移するものと見込む。
 - ・産業用機器・部品市場は、伸び悩む中で推移するものと見込む。
 - ・中国の輸出規制の対象拡大により、原材料であるタングステンにおいて、中国からの輸出に時間を要する状況。当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産に影響を及ぼすことはないが、他の仕入先からの調達、在庫のさらなる備蓄、リサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け注力。
- ・業績、配当金予想
 - ・当第1四半期の業績は、当初想定通りに進捗しており、また、当第2四半期の業績予想は、米国の関税措置の影響を織り込んでいないものの、現時点では想定通りに進捗するものと見込む。
 - ・2025年5月14日に公表した、2026年3月期第2四半期及び通期の連結及び個別業績予想値並びに配当金予想に変更はなし。

2026年3月期 (2025年度) 第1四半期決算の状況 (連結)

業績の状況・主な経営指標

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,181	3,134	△47	△1.5
営業利益	180	205	25	14.2
経常利益	284	268	△16	△5.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	187	181	△5	△3.0



財務の状況・主な経営指標

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上高営業利益率 (%)	7.3	9.6	5.3	5.7	6.6
自己資本四半期純利益率 (ROE・%)	2.2	2.8	1.6	1.6	1.5
総資産経常利益率 (ROA・%)	1.8	2.6	1.5	1.6	1.5
1株当り四半期純利益 (EPS・円)	45.45	60.45	36.79	38.62	37.41

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第1四半期	対前年比 増減額
総資産	17,633	17,762	128
負債	5,070	5,196	126
純資産	12,563	12,565	1

区分	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
自己資本比率 (%)	65.7	63.9	65.8	69.7	70.7
1株当たり純資産 (BPS・円)	2,102.94	2,264.84	2,360.19	2,530.87	2,588.80

**サステナビリティの取組み
TOPIC**

枯渇リスクの高い資源の有効活用 (Circular Economy)

枯渇リスクの高い資源の最終廃棄をゼロにします。

取組みテーマ

- リサイクル原料の活用を推進し地球から採掘する資源を削減します。
- お客様からの回収を含めサプライチェーンにおけるリサイクルを推進します。
- 資源使用量削減だけでなく、省資源形状などを積極的に提案します。

成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

■ 希少金属の再利用・再資源化への取組み

タングステンのほか、金、銀、銅、コバルト、ニッケルを対象に他社製品を含めて使用済製品を買い取り、金属リサイクルメーカーにおいて製錬した後、リサイクル原料として供給を受けて生産に再利用することで、原料の安定調達及び資源循環を進めています。

なお、本取組みを実施するにあたり、古物営業法に基づく古物商の許可を得ております。

リサイクルを目指す商品群



タングステン・モリブデン製品



タングステン合金製品



超合金製品

提供価値の転換と新たな価値の創出 (Creation of Value)

省エネ、省資源、脱炭素などの社会課題解決につながるソリューションの提供を中核事業とします。

取組みテーマ

- 優れた商品を持続可能な製法とサプライチェーンで提供します。
- 市場の用事を探求し、デジタル技術活用等により付加価値を創出します。
- コア事業の進化と新規事業の創出を両立します。
- イノベーションを創出するための人材・組織能力とプロセスを強化します。

成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

付加価値創造サイクルの構築に向けた取組み

当社事業の持つ強みを最大限に生かし、顧客価値の創出を主眼においた全社戦略を再構築するため、機能別組織への変更を実施し、体制整備を進めています。

営業本部の新設

・お客様ニーズを起点とした付加価値創造を全社で推進するため、各事業本部配下の営業機能を独立・一本化した「営業本部」を新設。
本部下に「営業企画部」「海外営業推進室」「東京/東海/大阪/九州支店」を新設。

技術開発本部の新設

・技術リソースの集中度を上げるため、これまで分散していた生産技術・研究開発・商品開発の機能を「技術開発本部」に新設・集約。本部下に「生産技術部」「要素技術開発部」「商品開発部」を新設。

製造本部の機動力強化

・機械部品事業本部・電機部品事業本部は、機械部品製造本部・電機部品製造本部へ変更。
・機械部品製造本部・電機部品製造本部下に製造技術部を設置し、製造技術の機動性・専門性を高める。

工場支援部の新設

・各工場の製造・技術開発を支える共通支援部門として「工場支援部」を新設。
・安全管理体制の抜本的な強化を目的として、当部下に「安全管理グループ」を新設。

働きがいと創造力のスパイラルアップ^o (Upward spiral of Creativity and Well-being)

多様な価値観を持った人々が、働きがいを感じ、積極的に力を合わせて価値創造に挑戦する企業文化を醸成します。

取組みテーマ

- すべての社員がイキイキと働けるように、健康経営を実践します。
- 会社の方針と社員の想いを融合させ、エンゲージメントを高めます。
- 多様な人々が認め合い共に成長する環境を整備します。
- 挑戦と学習を推奨、支援する制度や仕組みを整備します。

成功の柱

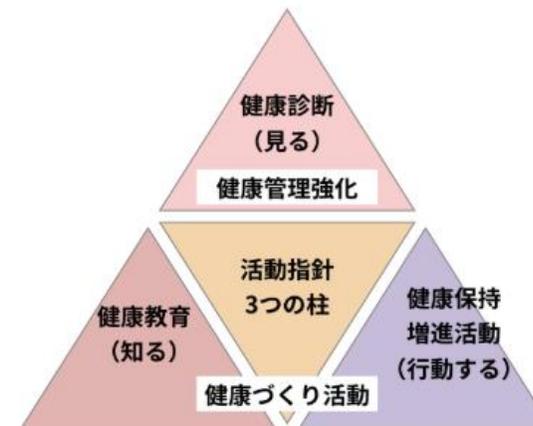
CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

健康経営の推進

従業員が自ら積極的に心身の健康づくりに取り組めるよう、

- ①自身の健康状態を見て（健康診断）
- ②何をすべきかを知り（健康教育）
- ③自ら行動する（健康保持増進活動）

の3点を「健康経営活動指針」として定め、従業員の健康の保持増進に取り組んでいます。



「さが健康企業宣言優良企業2025」
に認定されました

リアルとデジタルの融合

(Creation with real & digital transformation)

データ活用とデジタル技術を基盤とし、価値創造サイクルを迅速に回して提供価値を高めます。

取組みテーマ

- スマートファクトリー実現により、生産活動を自動化します。
- 数値計算手法やMIを活用し、開発スピードを向上します。
- データドリブン営業の実現により、お客様へ高付加価値を提供します。
- デジタル技術に習熟し、変革を推進できる人材を育成します。

成功の柱

CN	カーボンマイナスへの挑戦
CE	枯渇リスクの高い資源の有効活用
CV	提供価値の転換と新たな価値の創出
CW	働きがいと創造力のスパイラルアップ
CX	リアルとデジタルの融合

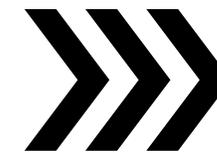
デジタル技術を活用した業務変革

顧客管理システムデータと基幹システムデータの連携による高度なデータ分析により、質の高い営業活動や意思決定につなげる活動を継続するとともに、生成AIの活用による間接業務の生産性向上に取り組んでいます。

顧客管理システム



基幹システム



連携のメリット

- ・顧客情報の重複を無くす
- ・最新情報にアクセス可能

**「Fine Ceramics Manufacturing Company of the Year
in APAC 2024」を受賞**

2024年アジア太平洋地域ファインセラミックス製造企業オブ・ザ・イヤー

「Fine Ceramics Manufacturing Company of the Year in APAC 2024」を受賞

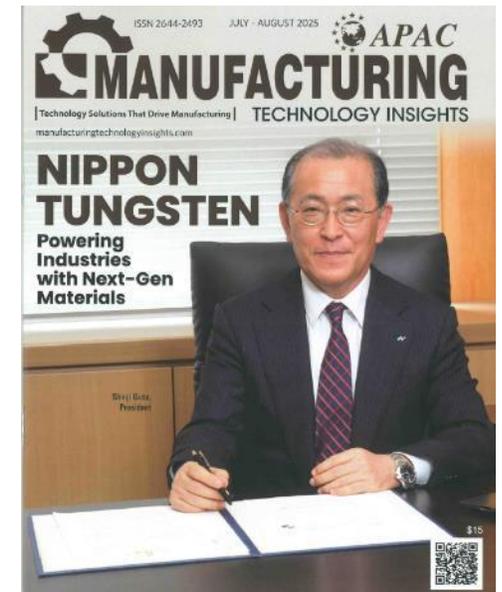
- 米国製造技術誌「Manufacturing Technology Insights APAC」において、イノベーション、顧客満足、市場でのプレゼンス等から選ばれる「2024年アジア太平洋地域ファインセラミックス製造企業オブ・ザ・イヤー」を受賞
- 同技術誌の表紙を飾り、特集記事が掲載されました。

当社の高機能材料からなる商品群の紹介

- データストレージにおける、ハードディスクドライブ（HDD）の性能は部品の品質に左右され、HDD用磁気ヘッド基板は、優れた耐摩耗性と安定性を実現しサプライヤーとしての地位を確立
- 医療、農業、水産養殖業界など、さまざまな分野で応用され事業化されるファインバブル技術は、加工精度の大幅な向上、工具の寿命延長、研削効率の向上を実現するファインバブル生成器「FB-ASSIST」を販売
- 不織布やフィルムなどの薄い材料の高速・高精度切断を目的として設計された、当時、世界初の超硬合金ロータリーカッター「NTダイカッター」は、硬度と靱性を向上させ、生産性の向上、部品の長寿命化を実現
- EVの生産に使用される高充填率プラスチックやバッテリー材料を扱う押出機部品向けに特化した、特殊な超硬合金「MAZELLOY」

持続可能性と先端材料の未来

- パーパス「より少なく。より良く。」のもと、高性能で持続可能なソリューションの提供や、人材への投資と次世代の事業戦略により、日本タングステンは材料科学のグローバルリーダーとしての地位を強化していく



本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



- I Rに関するお問い合わせ先
- 経営管理本部 経営管理部 : TEL092-415-5500
- mail : info@nittan.co.jp
- ホームページ : <https://www.nittan.co.jp/>